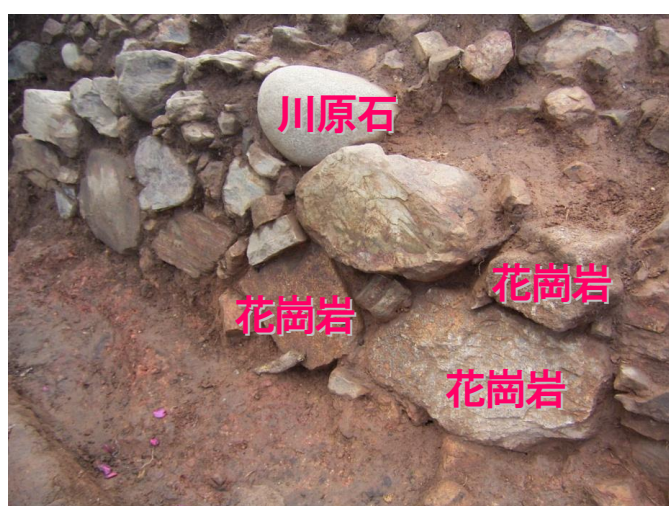


今回の調査で新たに確認した3段目の石垣（石垣Ⅲ）は、信長による小牧山城の築城工事がより大規模かつ本格的なものであったことを示す大きな手がかりとして関心を集めています。

詳細な調査・観察により、この石垣Ⅲには、これまで確認した1段目・2段目の石垣（石垣Ⅰ・Ⅱ）には見られない特徴があることが明らかになりました。

一味違う？ 石垣Ⅲ



特徴その1

搬入石材が多く使われる

石垣を構成している石材は30～50cm大と小ぶりですが、小牧山では産出しない花崗岩や川原石が多く使われています。



特徴その2

石垣を作る基礎の高さが変化

北東斜面を巡る石垣Ⅲを築く際、1段目（基底石）を並べるラインが地形に合わせて上下に変化します。

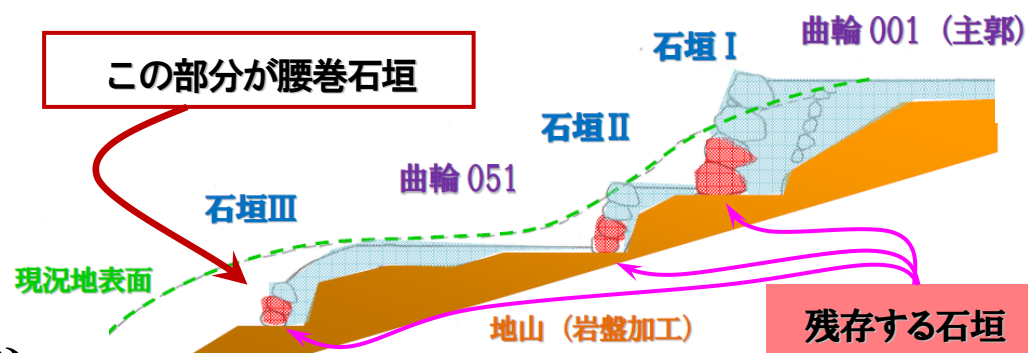


腰巻石垣の一例（東京都・八王子城）

特徴その3

こしまきいしがき 腰巻石垣

右図のように、斜面の上から下まで石を積み上げる石垣Ⅰ・Ⅱに対し、石垣Ⅲは斜面の下半分が石垣、上半分が土の法面という構造です。このような石垣を「腰巻石垣」といいます。



～小牧山城で確認された石垣の名称について～

小牧市では従来の調査の成果から、石垣の呼称を「上段石垣」、「下段石垣」と表現してまいりましたが、このたびの確認をうけて「石垣Ⅰ」（＝上段石垣）、「石垣Ⅱ」（＝下段石垣）、「石垣Ⅲ」（＝3段目の石垣）と改めさせていただきます。

危険ですので調査区内には立ち入らないでください

小牧市教育委員会